

フィリピンの 獣医学生にインタビュー

文責：日本獣医生命大学1年 古谷ゆかり

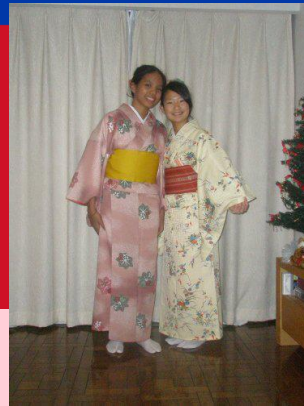
皆さん、明けましておめでとうございます。

5年前に私の家に1週間ホームステイをしていたフィリピンのサラ・マーニョさん。当時から獣医師になりたいとおっしゃっていて、3年前に獣医学科に入学されました。彼女とは5年の仲ですが、改めてインタビューをしてみました！

名前：Sarah Jane V. Maaño

学校：フィリピン大学 ロスバニョス校 獣医学科

学年：3年生（獣医学科は日本と同じく6年制）



(右は5年前日本で)

古谷：なぜ獣医師を目指そうとしたのですか？それはいつ頃ですか？

サラ：明確な理由があるわけではないのですが、獣医学科を選んだのはただこの学科に入りたかったから、ですね。獣医師になるのは幼い頃から私の夢でしたが、本気で目指すようになったのは、小学5年の遠足で訪れた水族館で、イルカのジャンプを見た瞬間からです。その時なぜか人間の動物や自然に対するエゴを感じて、獣医師になろうと決心しました。私は獣医師になることで、動物を治療することだけでなく、国全体に動物福祉や野生動物保護の重要性を訴えることができると考えています。

古谷： 確かに、獣医師の社会へ与える影響を考えたとき、その可能性は無限大ですよ。フィリピンにはどのくらい獣医学生がいるのですか？

サラ： 具体的な数は分からないのですが、ちょうど今年、獣医学科が人気急上昇学科の1つとしてランクインしたので、さらに獣医学生が増えていくだろうと予想されています。



古谷： 獣医学生同士の交流はありますか？

サラ： はい、大学内の獣医学生とは講演会や学生会議、小テスト大会や獣医学知識のプレゼンテーション大会などがあり、互いに学び合っています。他大学獣医学生および獣医関連学科の学生とは、女性社交クラブや男性社交クラブといった組織でダンスをしたり、ごはんを食べたりして交流しています。



古谷： 社交ダンスとはおしゃれですね！交流が深まりそうです。今通っているフィリピン大学ロバニョス校には満足していますか？

サラ： はい！ここで学べることをとても幸せに思っています。この大学はフィリピン国内でもっとも獣医学教育が優れているという認定まで受けていますし、教授方の、何でも教えるのではなく、自主的な学びを促すような授業の仕方、質問の答え方に満足しています。その限られた情報量の話の中からも、国内外で学んだ獣医学の知識の奥深さや、教育に対する情熱が伝わってくるのです。

授業で行なう実習内容も充実していて、手術の授業では大学付属の病院で実際に去勢、避妊、第三眼瞼の除去などを学生が担当します。大動物臨床や町の動物病院でも同様に手術実習を行ないます。また、解剖実習では事故や病気など、何らかの原因で死んだ動物を解剖します。

定期テストは年に7回あり、班ごとのレポートとプリントの宿題は週1で提出があります。大学がかなりのプレッシャーをかけて来るのです。

大学の嫌な点としては獣医学科に当てている資金と予算が少ないことです。最新の施設と機器があればもっと業績を伸ばせるのに、といつも思うのです。



古谷：患者さんのペットの手術を学生が行なうというのはとても実践的ですね！そういった実習や座学は1クラス何人で学ぶのですか？

サラ：実習は30人、座学は120人です。

古谷：好きな科目を教えてください。

サラ：解剖学、生理学、動物栄養学ですね。患者さんを目の前にして一番役立つ科目であると日々感じています。

古谷：座学が臨床実習にしっかりと生かされているのですね！サラさんはどのような獣医師になりたいと考えていますか？

サラ：野生動物の保護にあたる獣医師になりたいと考えています。フィリピンは世界でも生物多様性に恵まれた国にも関わらず、たくさんの種が絶滅していたり、あるいはその危機に貧しています。それはフィリピン国内の貧困と、教育が行き届いていないことに原因があると思います。ほとんどの国民が森林の重要性を知らず、森の開拓を進めてしまうのです。私は人々に野生動物保護の大切さを訴えながら、動物の保護活動をしていきたいです。



古谷：ありがとうございます。他にフィリピンが抱えている獣医関連の問題はありますか？

サラ：政府が一度、野生動物保護や獣医学のために使うと決めた予算までも、負債を払うために使われたり、汚職事件で消えてしまったりすることです。獣医師の地位は悪くないのですが、一般人の理解は乏しく、親戚には何度も「獣医なんか辞めて人医にきなさいよ。」などと言われました。

私がこの国を変えるという強い意志を持つ獣医師になり、主に野生動物保護の分野で、国民に自覚を促す活動をしていけば、この考えに自ずと人はついてくるのではないのでしょうか。そういったこの国の改革が私の目標でもあります。

古谷：難題に立ち向かう大きな目標ですね。フィリピンには狂犬病が蔓延している地域が多いと思いますが、その点にもついて教えてください。

サラ：今、フィリピン獣医学会と全獣医大学が協力して狂犬病の問題に取り組んでいます。一般向けの狂犬病の知識に関するセミナーを開講したり、無料の去勢、避妊キャンペーンや狂犬病ワクチンの接種も全国規模で行なっています。掲げている目標は2020年までにフィリピンを狂犬病清浄国にすることです。



古谷：詳しく答えていただいて本当にありがとうございました！大きな目標、サラさんなら叶えられると思います！ぜひお互い頑張りましょう。



今回のインタビューを通して、仲が良くても普段このような深い話を聞く機会がなかったな、と改めて思いましたし、本当に良い機会をいただきました。個人的にはフィリピンの獣医学生が社交ダンスで交流している、というところに驚きました！フィリピンならではの深刻な問題、それに立ち向かう彼女の使命感と決意に勇気をもらいました。

平成24年12月

